令和　５　年度　家　庭　科　シラバス

科　目	家庭基礎	単位数	２	履修学年・クラス（講座）	１年・全クラス
使用教科書	「高等学校　家庭基礎　持続可能な未来をつくる」第一学習社				
補助教材等	資料集　Life Design 資料＋成分表＋ICT　2024　実教出版 家庭基礎学習ノート　第一学習社				

１　学習の到達目標

人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的にとらえ、家族・家庭の意義、家庭家族と社会とのかかわりについて理解させるとともに、生活に必要な知識や技術を習得させ、生活における課題を見つけ、持続可能な未来の創造のための問題解決をめざす態度を育てる。パートナーが協力して主体的に家庭や地域の生活の創造する能力と実践的な態度を育てる。

（１）人の一生と家族･福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的な知識と技術を習得する。さらに、授業で学んだことを積極的に毎日の生活に生かす。【知識・技能】

（２）私たち一人ひとりが生活者であることの自覚を持ち、性や立場などにかかわりなく、よりよい生活を創造していくための課題を見つけ、問題解決を図ろうとする力を育てる。
【思考力・判断力・表現力】

（３） 生活に密接に結びついている政治や経済、地域社会や環境にも注目し、一人ひとりが自立しつつ、パートナーと共同で家庭生活の責任を果たすことができる実践力を育てる。
【主体的に学習に取り組む態度】

２　学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

家庭科では、社会人として独り立ちしていくための準備として、衣･食･住・保育・家庭経営など家庭生活全般について、よりよく生きるための知識と基礎的な生活技術を身につけるための学習を行います。

私たち一人ひとりは生活者であることを自覚することが大切です。日常の家庭生活では性や職業などにかかわりなく、よりよい生活を創造していくことが求められます。男女がともに学び、共同で家庭生活の責任を果たすことができる実践力を育てることが重要です。

そのためにまず、私たちの生活に密接に結びついている政治や経済、地域社会や環境にも注目しながら、家族などの人間関係、家庭経済や、衣・食・住の生活のし方、乳幼児の保育、福祉など家庭生活全般の知識や技術の習得をめざします。家庭科は実践的な教科なので学んだことを生活に生かし実践してください。そうして身につけた知識や技術を将来のよりよい生活を営む基礎としてください。

３　学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	教科の内容を理解し、生活や社会につながる知識・技術として身につけるられたか。	生活や社会の中の課題に気づき、身につけた知識・技術を用いて、深く理解し、解決策を見つけようとしているか。	自立を目指し力をつけること、仲間と共同して問題解決に当たれること、さらにSDGｓや持続可能な社会の実現に向けて積極的にかかわる態度が身についたか。
主な評価方法	・ペーパーテスト （事実的な俊樹の習得を問う問題及び俊樹の概念的な理解を問う問題）	・ペーパーテスト ・課題、作成したレポートや作品の内容 ・グループでの話し合いや発表の場面での観察	・課題、作成したレポートの内容や実習への取組み。（学んだことを毎日の生活で生かそうとしているかを主とした観点による評価）

４　学習及び評価計画
※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	教　　材	時数	学　習　内　容	評　価　規　準
4	導入	1	・「家庭基礎」の意義や内容、学習方法、評価	教科の意義や内容、学習方法、評価の方法などを理解している。(a)
	第 1 章：これからの生き方と家族 1 節：生涯の生活設計 2 節：家族・家庭と社会とのかかわり	9	・人の一生を生涯発達の視点でとらえ、各ライフステージの特徴と課題について理解する. ・家族や家庭生活の在り方、子どもと高齢者の生活と福祉について考え、共に支え合って生活する事の重要性に気づく。	・生涯発達する自分について、各発達段階の特徴を理解でき、青年期の特徴について理解している。(a) ・自分の生活を見つめ、４つの自立を理解し、達成するための道筋を考えることができる。(b) ・キャリアの形成とワーク・ライフ・バランスについて理解し、自己実現と生活の質の向上を目指すためのライフコースについて考える。(c) ・家族・家庭・世帯について理解し、自分にとっての家族・家庭はどのような役割があるか理解することができている。(a) ・結婚と変化する家族の現状を知り、家庭の基礎となる結婚の重要性について考えることができ、将来自分で築く家庭について考察できる。(b) ・家族・家庭の歴史を学び、・家族・家庭についての法律の移り変わりと家族・家庭のあり方の変化を知り、改正案など今後の課題について考察できる。(c)
5 6	第２章：次世代をはぐくむ 1 節：子どもの発達 2 節：子どもの生活 3 節：子育て支援と福祉	10	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもの育つ環境について理解する。 ・子どもを生み育てる意義を考えると共に、親や家族及び地域や社会の果たす役割について理解する。	・命の始まりや乳幼児の心身の発達の特徴について理解できる。(a) ・子どもの成長を支える親の役割や親子のかかわり方について理解し、子どもが育つ環境としての家庭や社会の在り方について考察することができる。(b) ・子どもをとりまく現状や課題を知り、子どもの成長を支える社会の支援について考え、積極的に子どもと関わる気持ちを持つことができる。(c)
7	第３章：充実した生涯へ 第４章：ともに生きる	8	・高齢期の特徴と生活及び高齢社会の現状と課題について理解し、家族や地域及び社会の役わりについて考える。 ・生涯を通じての福祉や社会的支援について理解し、共に支えあうことの重要性について考える。	・日本社会の課題である少子高齢化について理解できている。高齢者の生活をみつめることにより、これからの高齢社会にどう対応するか、支えあう家庭・社会の両面から、高齢者福祉を考える。(a) ・充実した高齢期を実現するための地域や社会の在り方を考える。(b) ・社会を形成する人の多様性と、自己を含む、それぞれの意思を尊重しながら主体的な社会参加を促し共に生きる、社会的包摂について考察できる。(c)

8 9 10	第５章：食生活をつくる 1節：人の一生と食事 2節：栄養と食品 3節:食生活の安全のために ［実習①～③］ 4節:食生活をデザインする	30	・自立した生活を営むために必要な衣食に関する基礎的･基本的な知識と技術を習得させ環境に配慮したライフスタイルについて考察し、生涯を見通した、主体的な生活を設計することができる。	・健康で安全な食生活を営むために必要な、栄養・食品・調理及び食品衛生などの基礎的･基本的な知識と技術を習得する。(a) ・食事摂取基準および食品群別摂取量を知り、自分にあった食事量を理解する。バランスの良い献立を作ることができ、実習を通じて、食品の選択・取り扱い・食品添加物、食中毒など食品衛生に留意することも、食生活を健全に営むために重用であることを理解する。(b) ・現代の食生活の課題・問題点を見つけ、健康な食生活を営むために必要な環境や安全についても考察し、積極的に食生活を営む態度を持つことができる。(c)
11 12	第６章：衣生活を作る 1節：人の一生と被服 2節：被服材料と管理 ［実習①・②］ 3節：これからの衣生活	10	・被服管理に必要な被服材料・被服構成などの、基礎的・基本的な知識と技術を習得し、目的に応じて着装を工夫し、健康で快適な衣生活を営むことができる。	・被服の変遷や世界の被服から、着用する意義や被服の役割を知り、身近な被服にどのように生かされているのかを考察できる。(a) ・被服素材の種類、各繊維の特徴を知り、被服の洗濯などの手入れや管理のし方を合わせて、よりよい衣生活を送る方法を理解し、実習を通じて技術を習得し、作品を通じて自分らしい表現ができる。(b) ・現代の衣生活の課題・問題点を見つけ、よりよい衣生活を営むために必要な環境や安全についても考察し、積極的に衣生活を営む態度を持つことができる。(c)
1 2	第８章：経済生活をつくる 1節:私たちの暮らしと経済 2節:消費者問題を考える 3節:持続可能な社会をめざして 第７章：住生活を作る 1節：人の一生と住まい 2節:住生活の計画と選択	10	・消費生活や生活における経済の計画に関する基礎的･基本的な知識と技術を習得する。 ・生活における基本的な知識を学び、住居の機能、住居と地域社会とのかかわりなどに必要な基礎的･基本的な知識と技術を習得し、安全で環境に配慮した住生活を営むことができる。	・消費生活の現状と課題や諸費者の権利と責任について理解できている。(a) ・生涯を見通した自己の生活を主体的に必要なことは何か理解している。(b) ・環境保全を考えた消費者として、持続可能な社会のためにできることは何か考察し行動できる。(c) 世界の住居の特徴や日本の家屋の時代的な特徴を理解するとともに日本の気候や生活スタイルに合った住居の形や機能を理解する。(a) ・自分らしい生き方や、環境に配慮したライフスタイルについて考察でき、それに合った住まいの条件を理解する。(b) ・身近な地域の環境に着目し「住みよい環境」について積極的にかかわろうとする態度を持つ。(c)